

連合北海道地域ユニオン「第16回定期大会」を開催

1月23日、TKP ガーデンシティ札幌駅前において「連合北海道地域ユニオン第16回定期大会」を開催し、代議員および傍聴者含めて約65名が参加した。

冒頭のあいさつで渡辺直志 連合北海道地域ユニオン委員長は、「現政権は、労働規制緩和として「高度プロフェッショナル制度」の導入を目指しており、他にも解雇の金銭解決制度といった労働者保護ルールを、企業の使い勝手の良いように改悪しようとしている。このような労働者保護ルール改悪を阻止すべく、国会の力が重要になってくる。したがって、連合は、今後の5区の補選ならびに参議院選挙に向けて、全力で取り組まなければならない。同時に、春季生活闘争において意志合わせをし、各種課題解決に向けて共闘していかなければならない」と述べた。つづいて、



下田祐二 連合本部組織拡大・対策局長が来賓あいさつした。

その後、議事に入り、執行部が「2015年度の活動報告」および「2016年活動方針(案)」「2016年度予算(案)」「2016年度役員選出(案)」について提起した後、それぞれの議案について採決し、承認された。

最後に、「地域ユニオンは、未組織労働者の組織化を進め、2016 春季生活闘争で月例賃金にこだわり、底上げ・底支え、格差是正をめざす」とする大会アピールを採択した。

大会終了後、大瀧淳彦 全労済北日本事業本部専務執行役員付次長を講師に迎え、「FP から見た全労済の上手な活用法～勤労者が安心して暮らせる社会づくり～」と題した学習会を開催した。

